

【参考資料】 新学習指導要領における国語科改訂の要点

1 国語科の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

高等学校国語では、今回の改訂においても言語の教育としての立場を重視し、社会人として生きるために必要とされる国語の能力の基礎を身に付けるという基本的な理念を継承している。したがって、教科の目標については、小学校及び中学校との系統性を重視するため、想像力を伸ばすことについての記述を新たに加えているほかは、これまでと同様である。

2 高等学校国語科の改善に関する具体的事項

○中学校までに培われた国語の能力を更に伸ばし、社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることができるようにするとともに、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に応じた多様な学習が行われるよう、各科目の構成及び内容を次のように改善する。

(ア)「**国語総合**」は、現行の「国語総合」の内容を改善したものとする。実社会で活用できる国語の能力を身に付けるため、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの学習が総合的に行われるよう、内容を改善する。

その際、特に、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりする能力を育成することや、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度の育成を通して、感性や情緒をはぐくむことを重視する。

(イ)「**国語表現**」は、現行の「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成したものとする。

「国語総合」の学習を踏まえ、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、適切に話したり書いたりする力など、実社会で活用することのできる表現の能力を確実に育成するとともに、進んで表現する意欲や現代の国語の向上を図る態度をはぐくむようにする。

(ウ)「**現代文A**」は、近代以降の文章を対象とし「**古典A**」と対をなす科目として新設する。「国語総合」の学習を踏まえ、生涯にわたって日常的に読書に親しむ態度をはぐくむ。関連して、言語生活の在り方、言語の役割、国語の特質等についても指導し、我が国の言語文化に対する理解ができるようにする。

(エ)「**現代文B**」は、現行の「現代文」の内容を改善したものとする。「国語総合」の学習を踏まえ、近代以降の様々な種類の文章や資料を教材として取り上げ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの言語活動を通して、読む能力のみならず、読んだことをもとにして考え、判断・評価し、それをまとめて論理的に表現する能力を育成するとともに、文字・活字文化に対する理解が深まるようにする。

(オ)「**古典A**」は、現行の「古典講読」の内容を改善したものとする。「国語総合」の学習を踏まえ、古典の原文（近代以降の文語調の文章を含む）のみならず、古典についての解説文や小説、随筆なども教材として幅広く取り上げ、古典の世界に親しむ態度をはぐくむ。関連して、言語の役割、国語の成り立ちや特質についても指導し、我が国の言語文化に対する理解ができるようにする。

(カ)「**古典B**」は、現行の「**古典**」の内容を改善したものとする。「**国語総合**」の学習を踏まえ、**古典**の原文や、**古典**についての評論文などを教材として取り上げ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの言語活動を通して、系統的に**古典**に接することができるようにし、**古典**に対する関心と知識を高め、**古典**を読む能力を育成する。

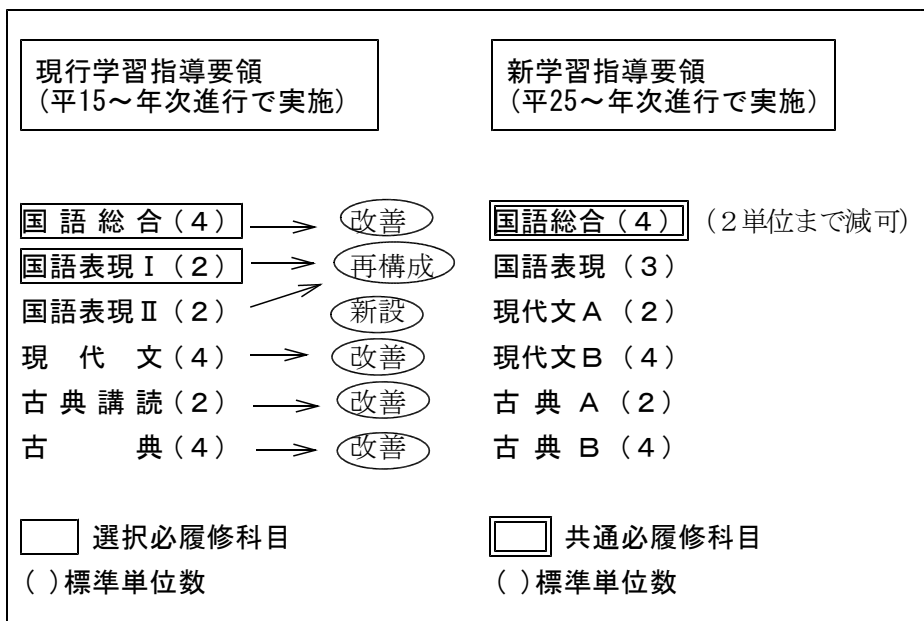
3 科目構成の改善

これまでの「**国語表現Ⅰ**」、「**国語表現Ⅱ**」、「**国語総合**」、「**現代文**」、「**古典**」及び「**古典講読**」の6科目から成る構成が、「**国語総合**」、「**国語表現**」、「**現代文A**」、「**現代文B**」、「**古典A**」及び「**古典B**」の6科目から成る構成となった。このうち、総合的な言語能力を育成する「**国語総合**」が共通必修科目となり、他の5科目は、「**国語総合**」の内容を、科目の性格、特色に応じて発展させた選択科目となった。

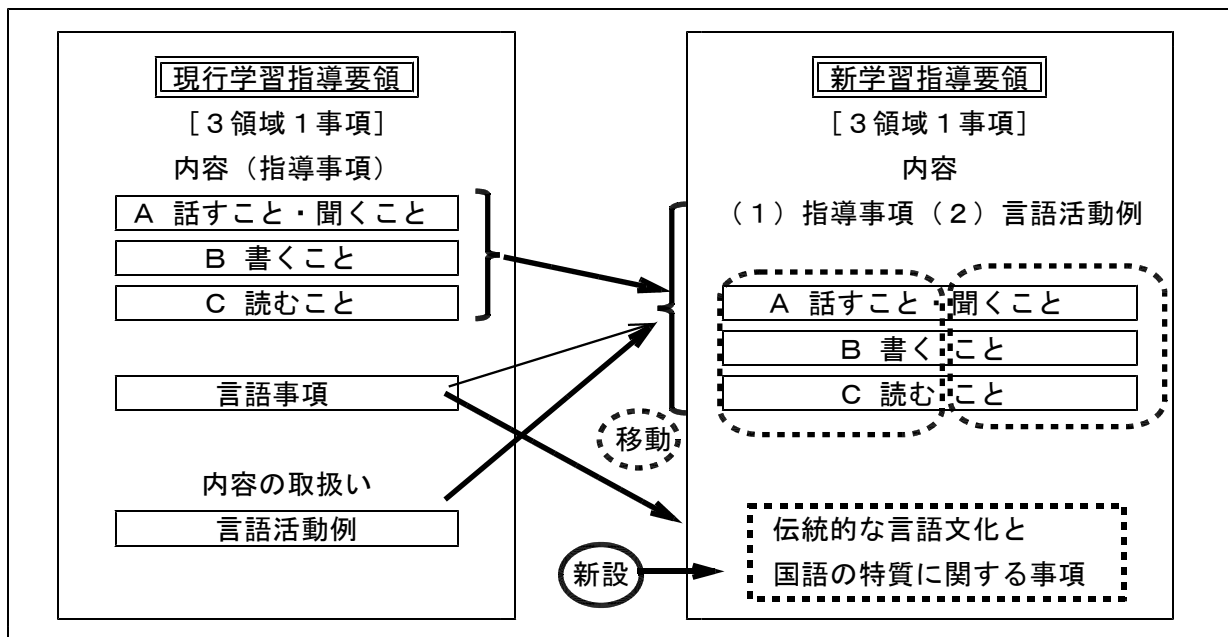
今回の改訂で共通必修科目を置くこととなったのは、答申において「学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める**国語**、**数学**、**外国語**については、現在選択必修となっているが、義務教育の成果を踏まえ、共通必修科目を置く必要がある。」と提言されたことによる。この趣旨を踏まえ、「**国語総合**」が共通必修科目となった。これにより、高等学校**国語**において指導する内容の共通性を重視することとなった。

表現に関する科目が1科目となったのは、「**国語総合**」との関係を整理し再構成したためである。また、これまでも2科目で構成していた**古典**に関する科目に加え、**現代文**に関する科目も2科目としたのは、生徒の多様性に対応するとともに、言語文化についての指導を重視するためである。

科目構成の改善について図示すると、次のようになる。



4 内容構成についての改善（「国語総合」）



5 言語活動の位置づけについて

言語活動を通して指導事項について指導するという枠組みはこれまでと同様であるが、今回の改訂では、各科目及び領域の内容の（１）に指導事項を示すとともに、これまで内容の取扱いに示されていた言語活動例が内容の（２）に位置付けられ、再構成された。これは、内容の指導にあたって、（１）に示す指導事項を（２）に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためである。

なお、内容の（２）に示された言語活動例は、中学校までも含めて既に指導されていることである。また、例として示されているので、これらのすべてを行わなければならないものではなく、それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

6 「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

国語総合	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
国語表現	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）		（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
現代文A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
現代文B	（話すこと・聞くこと）	（書くこと）	（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
古典A			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
古典B			（読むこと）	（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

（太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示している。）

【参考資料】

高等学校国語科の学習指導要領に示された言語活動例の新旧対照表

* 下線を付した部分が変更点

	現行の学習指導要領（平成15年～年次進行で実施）	国語総合	新学習指導要領（平成25年～年次進行で実施）
国語総合	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>(ア) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。 (イ) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。 (ウ) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。</p> <p>書くこと</p> <p>(ア) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。 (イ) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。 (ウ) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。</p> <p>読むこと</p> <p>(ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。 (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。 (ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。</p>	<p>国語総合</p>	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。 イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。 ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。</p> <p>書くこと</p> <p>ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくり随筆などを書いたりすること。 イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p> <p>読むこと</p> <p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。 イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。 エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>
国語表現 I II	<p>ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。 イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。 ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などの話をしたり文章を書いたりすること。 エ 身近にある様々な表現を集めてその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。</p>	<p>国語表現</p>	<p>ア 様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりすること。 イ 詩歌をつくり小説などを書いたり、鑑賞したことをまとめたること。 ウ 関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめること。 エ 相手や目的に応じて、紹介、連絡、依頼などのための話をしたり文章を書いたりすること。 オ 話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、図表や画像なども用いて編集すること。</p>

	現行学習指導要領（平成15年～年次進行で実施）	新学習指導要領（平成25年～年次進行で実施）
現代文	<p>ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 自分で設定した課題を探索し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。</p>	<p>現代文 A</p> <p>ア 文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりすること。</p> <p>イ 外国の文化との関係なども視野に入れて、文章の内容や表現の特色を調べ、発表したり論文にまとめたりすること。</p> <p>ウ 図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ、それについて話し合ったり批評したりすること。</p>
現代文	<p>ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>イ 文学的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>	<p>現代文 B</p> <p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>
古典講読	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読をすること。</p> <p>イ 古典に表れた思想や感情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり発表したりすること。</p> <p>ウ 古典を読んで、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすること。</p>	<p>古典 A</p> <p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら音読、朗読、暗唱をすること。</p> <p>イ 日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告すること。</p> <p>ウ 図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりすること。</p>
古典	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読、暗唱をすること。</p> <p>イ 国語の変遷などについて関心を深めるため、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照すること。</p> <p>ウ 古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて話し合うこと。</p> <p>エ 古典を読んで関心をもったことなどについて調べ、文章にまとめること。</p>	<p>古典 B</p> <p>ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。</p> <p>イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。</p> <p>ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。</p> <p>エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。</p>

高等学校における教科指導の充実
国 語 科
新学習指導要領への対応－言語活動の充実（2）－

発 行 平成23年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>